

事業完了報告書（大田区教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	令和6年4月25日 ～ 令和7年3月14日
調査研究事項	IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	1. 外国籍生徒の学習活動に有効なICT等の教材・教具を活用した効果的な教育指導について研究する。 2. SC等の外部人材等を活用した、より効果的な教育相談及び教育活動について研究する。 3. 日本語学級のない本校において、効果的な日本語指導を行い、各教科における学力の向上と授業力の向上について研究する。
調査研究の成果	上記のねらいを達成するため、本年度は教員研修と教育相談を柱に次のような取組を行い、実践に結びつけた。 1. 本年度の取組について (1) 学習活動に関する研修 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構准教授「登本洋子」氏を招聘して、日本語が母語でない生徒へのサポートというタイトルで研修を実施した。まずは翻訳ツールを紹介いただいた。Googleの拡張機能内のものやGoogle翻訳のマイク機能などすぐに授業に活用できるものであった。他に、漢字手書き検索やルビ振り機能、タイピング練習も紹介いただいた。また、総合やプログラミング教育に関するソフト等も紹介いただき、最後にモノグサという学習ソフトを紹介いただいた。これは有償なので、来年度の予算で対応可能なら導入してみたい。ICT技術は日々新しくなっていくので、日頃の研鑽が欠かせないと改めて感じさせられた。 (2) 教育相談 ① 学期に1回、大田区のスクールカウンセラーである東達彦氏による1対1の全員生徒面接を行った。面接結果のフィードバックをもとに個々の生徒が抱えている悩みや、これまでの人生におけるトラウマ等の状態を理解し、生徒一人一人に寄り添いながら「学び直し」や「日本での生活」を支援する方策について意見

交換した。

② 生徒全員面接後の教育相談研修

全生徒一人一人に対する教育相談を実施した「成果と課題」を踏まえ、慣れない異国の地でストレスフルな生活を余儀なくされている生徒が多い中、うつ病と自殺予防の理解と対応に関して講習を受けた。抑うつとは喪失体験から生じる悲哀の感情を拒絶することによって発生するので、生徒の悲哀を共感的に受け取り、穏やかに分かち合い温かく、好意的な人物や場所になることが大切だと学んだ。また、「死にたい」と打ち明けられたときの具体的な対応方法を学んだ。最後に夜間学級における先生や仲間との交流は温かく寄り添ってもらえる場として機能しているとお褒めのお言葉をいただいた。

(3) 日本語指導に関する研修

ヒューマンアカデミー日本語学校講師青柳氏を迎えて、①初級の指導、②文字の指導、③発音指導、④日本語能力試験対応、⑤質疑の項目でレクチャーいただいた。プロパエンシー（熟達度）に重きを置き、生徒たちの協同学習を中心にした指導方法、実際に動作をしながらの学習、漢字の学習にイメージを活用し教え合う、アクセントの可視化等、どの項目も実践的ですぐに活用できる内容であった。2学期からの日本語指導に生かしていきたい。

2. 改善充実の成果について

- ・ICT機器を活用し、視覚的な援助コンテンツを作成し効果的な日本語指導や教科指導を行うことができた。教材の自分の言語への翻訳や文字の大きさなども自在に変えることができるため、授業内容の理解が深まった。
- ・事前に自宅で取り組める学習コンテンツを提示し、授業に臨むことができ自信をもって授業に参加できるようになった。
- ・SCとの関わりと研修を通して、生徒理解を深めながら教員としての「観察力」と「指導力」を養い、生徒にとってより良い環境を整えることができた。

	・ 自分の客観的な日本語レベルを自覚でき、ある一定の目標をもって自ら学ぼうという姿勢が生徒たちに生まれた。中には自費で J L P T 日本語能力試験を受験し N 3 に合格した者もいた。 また、長年日本に暮らし、日本語で意思疎通をとることに問題はない生徒も、今までの自分の誤りに気づき、T P O に応じた会話（敬語等）を身に付けようと努力する姿が見られた。
--	---